路政小感（二）

淺香生

關門國道隧道專門協議會

國策的土木事業の一である、關門國道隧道の調査は、豫定の進行を見せて、愈々其の本隧道計畫の樹立に迄で漕ぎつけたのであるが、何しろ事柄が軍事、產業、經濟上は固より技術的にも劃期的なものである丈けに、內務省當局としても充分なる愼重を期することゝし、嚮に之が斯道に於ける專門家を委員に委囑し、計畫及設計方針に付審議を願つたのであるが、此の結果に基き現地の下關土木と土木局との間に愼重審議し萬全の方策を以て其の成案を得たので、去る九月二十二日午前十時から內務大臣官邸に於て第二回目の委員會を開催した。

當日出席を煩はしたる委員は左の如くである。

第二回關門隧道專門協議會出席者名（順序不同）

內務政務次官　勝田永吉
內務次官　館哲二
內務參與官　木村正義
內務省土木局長　安藤狂四郎
內務省計畫局長　松村光磨
內務技監　辰馬鎌藏
同土木局第一技術課長　鈴木雅次
同第二技術課長　佐藤利恭
同土木試驗所長　藤井眞透
同下關土木出張所長　伊藤百世

同　道路課長　石井政一
同　港灣課長　生悅住求馬
鐵道省建設局長　堀越清六
企畫院交通部長　原清
海軍省軍務局第二課長　西尾秀彦
陸軍省兵務局防備課長　鎌田銓一
陸軍工兵大佐　山口昇
東京帝國大學工學部教授　吉田德次郎
東京帝國大學工學部教授　宮部直巳
地震研究所博士員　瀧山與
理學
京都帝國大學工學部講師

協議に先ち末次内務大臣から左の如き挨拶があつた。

本日茲ニ關門隧道第二回專門協議會ヲ開クコトニ相成リマシタ處、御多忙中ニモ拘ラズ各位ノ御出席ヲ頂キ厚ク御禮申上ゲマス。

曩ニ第一回專門協議會ニ於キマシテ各位ヨリ拜聽致シマシタ、權威アル御意見ニ基キマシテ更ニ計畫ニ再檢討ヲ加ヘ、今回成案ヲ得マシタ次第デアリマスガ、本隧道ハ我國ニ於ケル劃期的ノ工事デアリマスノデ更ニ各位ノ御意見ヲ拜聽シ設計ノ完璧ヲ期シタイト存ジマス。

尙本隧道工事ハ軍事、產業上緊急施行スルノ必要アリト認メマシテ、曩ニ省議ヲ經マシテ之ニ要スル經費千七百萬圓ヲ昭和十四年度以降四ケ年繼續費ヲ以テ大藏省ニ要求ヲ致シテ居リマス。之ガ實現ニ就キマシテモ御援助ヲ得タイト存ジテ居リマス。

次で豫ねて陸地測量部に委囑してあつた地塊運動の調査の結果に付、地震研究所の宮部理學博士より「關門附近地塊運動と關門トンネル」と題し詳細なる報告があつた。其の結論は同地附近に於ては地塊運動の行はれた形跡は眞に微々たるものであつて、此處に隧道を開鑿することに付ては何等の懸念もないと云ふことであつた。

佐藤第二技術課長は、前回の協議に依つて得たる各種の意見に基いて樹立した設計に付一應の說明を試み、就中、線形、勾配、橫斷面形狀に付いては、其の採擇したる根據に付論及し、工事方法に付いては、各位の忌憚ない智惠を

拜借したいと極めて詳細なる説明があつた。

中尾關門隧道調査事務所主任技師は、本調査に着手以來現在迄の工程に關し、九月二十日現在で、其の坑導は下關側約二百米、門司側三百米の掘鑿で目下門司側の最深部に掛つて居るのであるが、調査は大體順調である。また湧水のあつた箇所の苦心と經驗とは、愈々本工事遂行上に充分なる見透しと確信とを得るに至つた旨の報告があつた。

以上の説明及報告に對し、各委員よりは交々有益な又熱心なる質問があつた。

次で陸軍省鎌田大佐より「防空上ヨリ見タル關門トンネル」に付、專門的見地から誠に得難い講演があり、其の内容は本計畫の愈々重要性と、設計施行上に於ける幾多の參考資料を提供せられ、殊に隧道竣功後に於ける管理上に付いても深く注意せらるゝ處があつた。

夫れより各位は座談的に各種の質疑應答があり、結局土木局より提案せられた設計を適當とすることに決定したのである。

尚安藤土木局長より、各位に於かれては是非現地を視察せられて、御指導を願ひたいとの申入れがあつたので、これは近く西下せらるゝことゝなつた。

以上で大體本專門委員會は、一應の結末を付けた譯であつて、眞に適正な設計も確立した次第である。我等は今や明年度早々輝かしい首途に突入することを待機して居るのみである。

因に末次内務大臣は、此の際本隧道の調査狀況を中心として、關門附近の土木事業を視察せらるゝことゝなり、安藤土木局長を同伴して、九月末西下せらるゝ豫定である。

池本泰兒君の歸朝談

昭和十年七月「アフガニスタン國」政府の招聘を受けて、同國に滿三箇年間滯在し、主として道路、河川の調査を執掌して居られた同君は、先般無事大任を終へて歸朝せられ、目下土木局第二技術課に勤務して居られるのであるが、過般内務省で、左の如き同國の概觀談を試みられ同君一流の

諧謔を交へた巧みな話題で安藤土木局長、辰巳技監其の他多數の聽衆の爆笑裡に非常な感銘を與へられた。

『アフガニスタンに參りますには、門司から上海、香港、シンガポール、コロンボを經て印度盆買に上陸致します。これに約二十五日間を要し、之れより汽車にて約五十時間でアフガン國境にあるペシヤワール市に到着します。アフガニスタンには汽車がありませんから之れから自動車で二日行程にて首府カブールに着きます。

此の國の面積は略々吾國本土と同じ位でありますが其の三分二は岩石の急峻な山であり、高いもので二萬五千尺以上のものもあります。其の三分一の大部分が、荒壁を横にした樣な硬い平地と砂原の沙漠であります。年雨量一五〇耗位に降雨量に依る雨水と、高山からの溶雪水とに依る河水で灌漑し得る程度の耕地とがあります。だから其の耕地は河に極接近した流域と、極僅かな地下水とに依つて作られて居り、其處に都市村落が出來てゐる譯です。だから樹木は其の水を得られる部分のみにあり、大部分の山も沙漠にも全く樹木はないのであります。唯多少印度に近い方の山には用材になる林が僅かあります。

氣候は高い土地ですから非常に變化があつて首府カブールは標高五千尺もあつて先づ仙臺位の氣候でありますが冬期でも之れから百哩も行くともう日本の眞夏程の暑さになるといふ樣な風であります。南部は一般に標高二千尺位で冬は薄氷が張る程ですが、夏は攝氏四十五度程にもなり大變に暑いですが、空氣が甚だしく乾燥してゐますから割に凌ぎ易いです。

全人口は五百萬から千萬位かと思はれます。首府カブールは二十萬程で他に十萬前後の都市が三ケ所程あります。カブール市、カンダハル市、ヘラツド市の三大都市でありますが、此處には電燈もあり又相當物資も豐富にあります。水道はカブール市だけであります。

首府カブールには、內務、外務、陸軍、大藏、商工、農林、土木、遞信、衞生等の省があります。其の大臣方は大概王家の親族方でありますから、內閣の更迭の如きは無い

様に思はれます。財政は年五千萬圓位かと思はれますが、之れは地租、營業稅、關稅其の他のものでやつて居ます。軍隊と土木事業等には力を入れてやつてゐます。軍隊は常備二十萬位で飛行機も三〇臺位はありませうが、總て其の裝備は輸入品に依つてゐる樣です。此の國での輸出品としては、果物、乾果、羊毛、毛皮、絨壇の樣なもので、布類雜貨、茶、砂糖の如きは殆んど輸入品で、日本品も千萬圓程入つて居るといひます。だから店を見てゐると丁度日本の店を見てゐる樣な氣のすることもあります。

教育は各都市には普通教育の學校があります。八年位の樣です、カブール市には他に獨逸語學校、佛蘭西語學校、英語學校があり、其の上に大學もあります。實業學校には農業、工藝、醫科等があります。軍隊の方の幼年學校、士官學校の方は整備してゐると聞いてゐます。然し國全體から云ひますと教育を受ける人は全國民の二割位のもので他は殆んど讀み書きも出來ない樣です。私も三年居りましたが、話すことだけは先づ用を足す程度には出來ますが、讀み書は覺えませんでした。官用語はペルシヤ語でありますが、來年あたりからプシト語を官用語にする樣になつて今其の準備をしてゐます。現在でもペルシヤ語を話す人とプシト語を話す人は半々位あります。此の他にベルチ語及びトルキスタン語も多少用ひられて居りますが、官用語がペルシヤ語でありますために之れを知つて居れば大概間に合ひます。だが土地の人や人夫に話すには通譯して貰はなければならないことになります。

宗教は嚴格な回教でありまして、絕對禁酒であり、又女は戶外では絕對に顏を見せないことになつてゐます。政治や裁判は全くコーランに依つてやられて居る樣です。全國民が回教徒であり、之れは一日に數回西方メツカを向いてお祈りをします。主食物は麥のパン及び米を用ひ、肉類は羊、牛、鳥類であります。豚は絕對に食べません、魚は川魚が居りますが、一般には餘り食べない樣です。食事は座つて大皿に盛つた御飯や肉を數人で指で食べます。圓座になつて御飯を食べる處など一寸日本に似てゐます。此處の

人達は非常に親日的ですから氣持がいゝです。然しソ聯政府だの英國政府は、餘り日本人の行くことを好まない樣にも考へられました。

私は最初の一年三ケ月程は首府カブール市に居て、其の附近の工事に關係してゐました。灌漑用の堰堤の調査設計を十程しましたが、其の工事にはかゝりませんでした。カンダハルに行く前一週間位の時に藤芳、上ノ土兩氏が赴任して來られました。カンダハルへ行つてから直ぐ二月程かゝつて六萬町歩の綿畑を造る水路の測量設計をしました。其の頃藤芳技師が來られ、更に三月程して上ノ土氏が來られて、夫れからずつと三人でカンダハルに居ました。私の設計した處の水路を上ノ土技師が施工せられ、藤芳技師は先に獨逸人の關係してゐた水路の擴張工事をやつてゐます。之れは百萬町歩程の畑を造るものであります。

藤芳、上ノ土兩氏が來られてからは、私は道路、橋梁、建築其の他小さい水路などを受け持つてやつて居たのであります。

アフガニスタンの道路は、廣い固い沙漠に造るものでありますから、そして雨が尠ないですから唯迷はない樣に側溝を造り少しく砂利を入れゝば良いので直線部分が多く、樂々出來ます。國道ともいふべきものは、環狀線一つで夫れに三つの外國へ連絡するものがあります。其の他の枝道の大部分は、灌漑用の水路が堀設して横斷してゐたりしますので、豫め用意して置かないとうつかり自動車も入れられない樣なものが多いです。汽車は全然ありませんから、貨物兼用の乘合自動車が速い交通機關で、其の他馬、駱駝騾馬等であります。私共の出張も道路のある處は自動車でありますが、澤山の土木工事にはそんな道路のない處があるので其の時は馬だの駱駝だので、一月も連續で此の旅行は仲々疲れます。邊僻な處へ行けばランプもないので薪火で照明したりしてゐます。まあ日本の千年前の狀態と思つて頂けば大概御想像出來るかと思ひます。